

公益社団法人日本看護科学学会 平成28年12月社員総会 議事録

日 時：平成28年（2016年）12月9日（金）17：30～19：00

場 所：日本教育会館7階中会議室

（東京都千代田区一ツ橋2-6-2 TEL:03-3230-2831）

総社員数：264名

出席社員数：212名（会場79名、委任状133名）

会場出席社員：秋元典子、朝倉京子、麻原きよみ、阿曾洋子、天野瑞枝、荒尾晴恵、飯田苗恵、飯野京子、石井邦子、泉キヨ子、一戸とも子、井上智子、岩永喜久子、上野恭子、江川幸二、遠藤俊子、太田喜久子、岡崎美智子、雄西智恵美、嘉手苺英子、門間晶子、鎌倉やよい、亀井智子、萱間真美、川島和代、北素子、木下由美子、工藤せい子、グレッグ美鈴、小島操子、小松万喜子、小山真理子、酒井郁子、佐藤紀子、佐藤富美子、佐藤禮子、清水嘉子、新道幸恵、杉浦太一、鈴木志津枝、高田早苗、多喜田恵子、武田祐子、田代順子、田中京子、谷本真理子、近田敬子、中村恵子、中山洋子、成田伸、西村ユミ、任和子、野地有子、日高艶子、廣瀬規代美、深田順子、藤田君支、本庄恵子、前田ひとみ、牧野智恵、増島麻里子、町浦美智子、松尾ミヨ子、松田宣子、南裕子、宮子あずさ、村嶋幸代、百瀬由美子、森菊子、森田夏実、柳澤理子、山勢博彰、山田律子、山本あい子、山本則子、吉沢豊予子、吉田千文、良村貞子、若村智子、
（以上79名・50音順）

出席名誉会員：近藤潤子

出席理事・監事：萱間真美、井上智子、麻原きよみ、勝原裕美子、鎌倉やよい、グレッグ美鈴、酒井郁子、高田早苗、中山洋子、西垣昌和、西村ユミ、村嶋幸代、山本則子、吉沢豊予子（以上理事）、阿曾洋子 南裕子（以上監事）

議長：萱間真美（理事長）

議事録作成者：麻原きよみ（総務担当理事）

I. 開 会

開会時、会場出席者数43名（うち理事・監事14名）、有効委任状133名、総計176名であり、全代議員264名の過半数であるため、定款第23条および第24条に定められた要件を満たしており、公益社団法人日本看護科学学会の平成28年12月社員総会は成立した。司会は井上智子副理事長、書記は鈴木良実（聖路加国際大学大学院）、有田孝行（公益社団法人日本看護科学学会）で行なわれた。

II. 理事長挨拶

萱間真美理事長より、以下の挨拶があった。

2016年は日本では多くの天災や事故や事件があった一方、世界では政治や貿易の領域において右傾化、保護主義的な動きが見られている。また、日本における高齢者に関わる事故、障害者に関わる事件、いじめなどの多くの出来事も多い年であった。

こうした出来事に対し、すべてのライフステージに関わることができる看護からのアプローチの方法論を試行錯誤することが、我々、日本看護科学学会の立場ではないかと考えている。

本日の社員総会にもご出席いただいているが、JANS36 学術集会長である岡谷恵子先生をはじめ、多くの先生方や関係者の皆様にご尽力いただき、明日からの学術集会を迎えることができ、心より感謝を申し上げたい。

本学術集会は国民の幸せをもたらす制度設計と看護研究のテーマのもとで、抄録集アプリの本格導入や先人達のお話を伺う会などの新企画が盛りだくさんと聞いており、多くの方々に参加いただくことを期待している。

最後に、本日の社員総会では JANS のこれからのに向けた理事会、委員会等の取り組みについて報告を行い、代議員の皆様からの活発なご意見もいただき議論をしながら、今後の方向性を共有していきたい。

III. 第36回日本看護科学学会学術集會会長の挨拶

岡谷恵子学術集會会長より、以下の挨拶があった。

今回の学術集會は理事会の皆様、実行委員、企画委員の協力のもとで開催することができ、関係者の皆様には心から感謝を申し上げます。

今回の学術集會では、新たな試みである電子抄録アプリを本格的に導入する。アプリにはツイッター機能が搭載されており、講演やシンポジウム等にレスポンスとしてご意見を返すことが可能となっているため、ぜひ試していただきたいと考えている。

また、看護界のある意味レジェンドでもある名誉会員の一部の先生方と若手研究者との交流を目的としたプログラムも設けるなど、新たな企画も用意した。是非、皆様へ参加のご協力をお願い申し上げたい。

IV. 議長指名および議事録署名人の承認

定款 22 条 3 項に従い、萱間理事長が議長に選出された。会場出席者から議事録署名人を募ったが立候補がなかったため、議長から代議員の石井邦子氏（千葉県立保健医療大学）と鈴木志津枝氏（神戸市看護大学）の 2 名が推薦され、承認された。

また、昨年から社員総会での各担当理事からの報告は総務報告のみとしている。理事長から理事会報告・委員会報告を説明し、各理事からは事業計画案を説明する。

V. 総務報告・理事会報告・委員会活動報告

1) 総務報告 <麻原理事>

議案書（P.3）に基づき、以下の報告があった。

平成28年10月31日現在、正会員8,755名、名誉会員16名、賛助会員5件、会員総数8,776名である。議案書P.3の下部に記載した棒グラフは正会員数の推移であり、増加傾向である。

2) 理事会報告・委員会活動報告 <萱間理事長>

【理事会報告】

議案書（P.4～9）に基づき、理事会報告があった。

平成28年4月1日から12月9日までに理事会は合計で5回開催した。

【委員会活動報告】

議案書（P.10～14）に基づき、委員会活動報告があった。

総務委員会、和文誌編集委員会、英文誌編集委員会、研究・学術情報委員会、国際活動推進委員会、看護学学術用語検討委員会、看護倫理検討委員会、社会貢献委員会、表彰論文選考委員

会、広報委員会、若手研究推進委員会、利益相反委員会、研究倫理審査委員会、災害看護支援事業専門委員会の各活動内容が読み上げられ、他機関との連携活動実績および選挙管理委員会についての進捗状況が報告された。

【質疑応答】議長は質疑を促したが、特に質問はなかった。

VI. 審議事項

第1号議案 平成29年度事業計画案の承認について

議案書（P.15～18）に基づき、以下の事業計画案の説明と審議があった。

1) 学術集会 <萱間理事長>

- ・第37回日本看護科学学会学術集会開催

学術集会長：吉沢豊予子（東北大学）

日時：平成29年12月16日（土）、17日（日）

場所：仙台国際センター会議棟・展示棟

- ・第38回日本看護科学学会学術集会準備

学術集会長：佐伯由香（愛媛大学）

日時：平成30年12月15日（土）、16日（日）

場所：ひめぎんホール

- ・第39回日本看護科学学会学術集会準備

後程、第3号議案にて審議する。

2) 総務委員会 <麻原理事>

入会審査を行う。会員管理データシステムの稼働状況を把握し、会員向けのコミュニケーションサービスの充実を目指す。持続可能な事務所職員体制を確立するために、各職員による業務目標についてその達成度を評価し、査定する。また職員のスキルアップを図るため研修参加の機会を設け、より一層の事務所機能の効率化と強化を図る。

3) 和文誌編集委員会 <山本理事>

日本看護科学学会誌第37巻を発行する。

新査読ガイドラインに則り、査読システムの効果的運用と質の向上を図り、学会誌への投稿を促進することで、原著論文・総説の増加を目指す。

和文誌編集委員、査読者の活動を支援する教育プログラムの拡充を図る。投稿論文の図表・引用文献の記載に関するイニシャルチェックを中西印刷株式会社に委託し、さらなる投稿システムの充実・迅速化を目的に事業を展開する。

4) 英文誌編集委員会 <グレッグ理事>

Japan Journal of Nursing Science (JJNS) Vol.14を発行する。JJNSセミナーを開催し、JJNSプロモーション活動を展開する。現在行われているセミナーと、受賞論文をオープンアクセスにする活動は継続していくが、来年はさらなるプロモーション活動を行っていきたい。若手研究者支援事業は今年度論文の投稿が無かったが、原因を究明し参加条件の検討を行うなど、引き続き実施を予定している。

5) 研究・学術情報委員会 <酒井理事・西垣理事>

看護学の専門分野横断的研究、学際的研究、国際的研究の推進を目的に以下の事業を行う。

- ① 看護における優先研究課題に関する情報収集及び発信（社員に研究優先課題に関するWeb調査を行うための協力を依頼）
- ② 研究者のネットワーク構築に関する看護系学会や関連領域学会との連携事業の推進、交流会、シンポジウム等の開催、また、研究助成、留学助成の実施可能性について検討を行う。
- ③ 看護学研究者の研究能力向上のための事業、具体的にはJANSセミナーの開催、教育資料としてのセミナー講義資料等のアーカイブ化について検討する。

6) 国際活動推進委員会 <中山理事>

JANSホームページ内にある「異文化看護データベース」を「グローバル看護データベース」に名称変更し、再構築によるシステムの拡充を行う。予算に関しては平成29年度の科研費の研究成果公開促進事業に応募している。助成金を獲得できるか分からないが、データベース再構築のための最低限の予算は計上しているので、今後、出来る範囲で取り組んでいきたい。

世界看護科学学会（WANS）事務局として2017年10月20日～22日にタイのバンコクで開催される学術集会の準備を行うとともに、併せてWANS理事会の開催を予定。またWANS事務局として例年同様、ホームページの維持管理、WANSネットワークの拡大等を行う。

7) 看護学学術用語検討委員会 <高田理事>

看護学を構成する重要な用語集100語の用語を定義してから5年ほど経過しているため、その用語集の利用実態や、どのような用語の検討を期待しているかのニーズの把握を目的に、昨年Web調査を行った。現在、調査結果を踏まえ、活動内容の検討の段階である。

看護学学術用語委員会での議論についてはJANSホームページ等から発信を予定。なお、用語の検討では、内部だけではなく一般社会や当事者との協働を踏まえ検討するという観点を含め定義の再検討を考えている。また、看護実践を表す新しい用語の掘り起こしや、学術用語に関する調査で「検討してほしい」と意見のあった用語について、実施したWeb調査の結果をもとに検討を行っていく。

8) 看護倫理検討委員会 <鎌倉理事>

Web調査を行い、JANSの会員の研究倫理の遵守、研究活動の不正防止活動について傾向が見えてきたため、啓発活動を行う予定である。調査の結果はすでにJANSホームページに掲載されているが、改めて論文を作成し、和文誌に学会報告として投稿することを予定している。看護学が関連する倫理的社会事象に対する情報収集と対応策を検討することに関しては引き続き実施していく。

9) 社会貢献委員会 <吉沢理事>

第37回学術集会に向け、市民フォーラムとナーシング・サイエンス・カフェの企画を行っていく。

10) 表彰論文選考委員会 <グレッグ理事より代理報告>

来年度も表彰論文の選考と公表を行う。表彰論文選考手順の一部を改正した。該当の論文の

中から選考基準に従い和文誌と英文誌の上位10篇以内の選考を提案し、委員会による選考を経て、社員の皆様に評価してもらうような選考方法で行っていく。

11) 広報委員会 <勝原理事>

学会広報媒体の作成・維持・管理を行う。(以下を参照)

- ① ホームページの維持・管理
- ② 他委員会との連携による学会活動の広報・周知
- ③ 学会やイベント等の記録
- ④ 学会広報媒体の評価と改善

また、広報活動としてWANSに関連した情報の周知や、学術集会に関する啓発活動を社会貢献委員会との連携により行う。英文のフライヤーの更新も検討している。

なお、新事業として研究を実践へトランスレーションするための広報を行う。これはJANSから生まれた優れた看護研究を実践家の方々に理解してもらい、現場でエビデンスに基づいた実践を広めていくことを目的としている。

具体的には表彰対象となった論文を作成した第一著者に800~1,000字で要約または解説を依頼し、ホームページ上に掲載することで、現場の看護職の方々に読んでもらい、興味を引くことで研究内容の周知と実践を目指している。

12) 若手研究推進委員会 <西村理事>

学術集会の交流集会、若手研究者のニーズに沿った研修を企画運営し、若手の研究活動推進に努める。次回の学術集会では国内外の多様な学問分野における若手研究者との交流を図り、情報を発信し、学際的な視点を養う素地を作ることを予定している。

若手の会専用のホームページの管理・更新を通し、活動を公表することで周囲の意見交換やニーズの把握と若手研究者が学び合える場を整備することを進めていく。

また、各地域で「若手の会」の活動を牽引する「エリア・コーディネーター」を育成し、若手研究者が各地で活躍できる基盤づくりを促進する。各種情報はメーリングリストを介して行い、情報交換や共有、相互交流に取り組んでいく。

13) 利益相反委員会 <吉沢理事>

役員、委員会委員、和文誌・英文誌投稿者、学術集会における発表者を対象にCOIを実施し、評価を行う。第36回学術集会における発表者のCOIは今のところ順調に進んでいる。利益相反における問題が生じた際の対処を行う。

14) 研究倫理審査委員会 <井上副理事長>

申請があり次第、倫理審査を行う。その他、研究倫理審査に関わる事項の検討を行う。

15) 他機関 <井上副理事長>

日本看護系学会協議会、看護系学会等社会保険連合、日本学術会議と連携し、情報の交換及び依頼内容に対応する。

16) 選挙管理委員会 <麻原理事>

理事候補者選挙結果より理事候補者名簿を作成し理事会へ提出する。次期選挙管理委員会への申し送り事項を整理する。

【質疑応答】

質問（武田社員）：若手研究推進委員会のエリア・コーディネーターの育成について、具体的に教えていただきたい。

回答（西村理事）：エリア・コーディネーター育成のきっかけは全国各地域においてJANS会員の分布にばらつきがあり、東北や北陸地方などメンバーが少ない地域では、若手研究者が研究しにくいという意見が聞かれたことにある。エリア・コーディネーターとして各地で数名ずつに核となってもらい、情報の発信や研修などを進められる基盤をつくりたいと考えている。このエリア・コーディネーターの役割を受けてもらった10名には、今回の学術集会の中でも若手の委員会と一緒に活動してもらう予定となっている。

事業計画案は原案通り、満場一致で承認された。

第2号議案 平成29年度予算案の承認 <村嶋理事>

議案書（P.19～23）に基づき、以下の審議があった。

平成29年度収支予算書案（P.19～21）の事業活動収支の部では、事業活動収入合計として150,272,000円、事業活動支出合計が138,539,000円、事業活動収支差額は11,733,000円の黒字を見込んでいる。

事業活動収入について、正会員会費収入は平成29年4月1日時点での会員数を8,700名、新入会者・再入会者850名、資格喪失者400名と見積り、合計請求人数を9,150名として計上した。賛助会員会費収入は本年度と同額を計上した。寄付金・助成金収入についてはグローバル看護データベースの構築費用として科研費から150万円を見込んでいる。雑収入については、セミナー収入を前年度と比較し、会員限定で募集をするWeb受講者が増加傾向にあるため、収入の増加を見込んでの額を計上している。

事業活動支出について、事業費支出の和文誌編集費支出では従来の電子ジャーナル制作費や編集関連経費およびオンライン投稿・査読システム利用料に加え、投稿論文イニシャルチェックを新たに依頼するため増額となった。英文誌編集費支出では、JJNSの編集費、編集事務費、英文誌編集長謝金等を含んでいる。看護学術振興費支出の国際活動推進委員会費支出では、WANS事務局業務を担っていること、第5回WANS学術集会の理事会に出席するための旅費、グローバル看護データベース構築に関する科研費対象外経費等を計上している。

管理費支出については、引き続き、事務所機能の拡充に関する経費を計上した。

公益法人会計基準に則った収支予算書案（P.22～23）では、会費収入は公益目的事業会計と法人会計に配分されている。また広告販売の収益を公益目的事業会計の赤字分に振替えている。当期一般正味財産増減額は10,429,560円を見込んでいる。

【質疑応答】

質問（中村社員）：先ほど説明のあった若手研究推進委員会のエリア・コーディネーターに関する予算や、広報委員会による研究を实践へという新事業についての予算はどこに含まれるのか。

回答（村嶋理事）：エリア・コーディネーターは若手研究推進委員会の予算に含まれており、具体的には旅費交通費で20万円、その他打合せ2万円が計上されている。その影響で平成28年の予算額に比べて10万円の増額となっている。広報委員会による研

究を実践にトランスレーションするための広報という新事業に関しては、学会員が自ら自分の研究の解説をしてホームページに掲載するので、特別な経費は発生しないと考えられる。このためホームページの更新・改善等の中での予算組みに含まれているとご理解いただきたい。

質問（中村社員）：エリア・コーディネーターに関しては委員会の中での活動を検討している段階であり、これからそれぞれの地域で活動を開始するレベルであると理解して良いのか。

回答（西村理事）：来年度はコーディネーターを育成し、将来各地における活動を行うための準備の活動を行っていく予定である。

回答（萱間理事長）：費用の面での記載はこれからとなるが、着々と準備しているので、その段階になったら、ご理解とご協力をお願いしたい。

予算案は原案通り、満場一致で承認された。

第3号議案 第39回日本看護科学学会学術集会会長の承認 <萱間理事長>

議案書（P.24）に基づき、以下の審議があった。

第39回日本看護科学学会学術集会会長として石垣和子氏（石川県立看護大学）が推薦され、満場一致で承認された。

その他 <萱間理事長>

会場からの意見と質問を受け付け、以下の質疑応答があった。

【質疑応答】

質問（嘉手苺社員）：広報委員会から報告のあった、研究を実践へトランスレーションするために論文作成者に解説文に書いてもらうという計画のPR方法に関して、多くの実践者の目に留まるよう日本看護科学学会だけではなく、論文テーマに関係のある学会、学会誌などに載せるなどの方法を考えるとよいのではないかと。

回答（勝原理事）：臨床の実践者にわかりやすい言葉をキーワードに登録し、検索しやすいような取り組みを考えている。新たな企画でもあり、広報活動について引き続き検討していきたい。

質問（田代社員）：JANSが成長をしていることを各委員会からの報告を聞いて実感した。その中で、研究の優先順位の決定や用語の検討、若手の広報などの計画に関して、一部、委員会が重複して行っているように感じた部分があり、各委員会がより連携して計画を進めていくことで、成果が見えやすくなるように思う。今後の期待を込めてお聞きしたい。

回答（酒井理事）：研究・学術情報委員会として、これから社員に対して行うデルファイ法によりJANS社員内の研究課題の優先順の合意ができると思う。それをもとにセミナーでの企画、広報委員会や若手研究推進委員会へのフィードバックなどを、具体的な結果をもとに話し合いを進めていけると考える。

回答（高田理事）：学術用語は用語という観点から、実践にどのように引き付けていけるかなどについて、他の委員会との合同で検討してはどうかと考えている。また、学会員との双方向的な関係での検討会の実施なども進めていきたい。

回答（西村理事）：若手研究者には様々なレベルの研究者がいるためニーズに合わせた研修の機会を検討している。

以上で、会場からの質疑応答が終了した。

最後に、6月に名誉会員になられた近藤潤子氏が「第2回山上の光賞」を受賞されたことが議長から報告され、同氏から以下のご挨拶があった。

近藤氏：このたびの受賞、たいへん光栄に思っている。また、本日、社員総会に出席し、日本看護科学学会が毎年成長をしていることが実感でき、とても嬉しい。

VII. 閉 会

閉会時、全代議員数264名の内、会場出席社員数79名、有効委任状133名、総計212名であることが報告された。

以上をもって、平成28年12月社員総会が閉会した。

平成29年 3月9日

議 長 萱間 真美 ㊟

議事録署名人 石井 邦子 ㊟

議事録署名人 鈴木志津枝 ㊟

公益社団法人日本看護科学学会 平成28年12月社員総会 議案書

日 時 平成28年12月9日(金) 17:30~20:00

場 所 日本教育会館 7階 中会議室

東京都千代田区一ツ橋 2-6-2 TEL: 03-3230-2831

I. 開 会

II. 理事長挨拶

III. 第36回日本看護科学学会学術集会会長の挨拶

IV. 議長指名および議事録署名人の承認

V. 総務報告・理事会報告・委員会活動報告

VI. 審議事項

第1号議案 平成29年度事業計画案の承認

第2号議案 平成29年度予算案の承認

第3号議案 第39回日本看護科学学会学術集会会長の承認

VII. 閉 会

公益社団法人日本看護科学学会 役員

理事長 萱間 真美

副理事長 井上 智子

理事：麻原きよみ、勝原裕美子、鎌倉やよい、グレッグ美鈴、酒井 郁子、
真田 弘美、高田 早苗、中山 洋子、西垣 昌和、西村 ユミ、
村嶋 幸代、山本 則子、吉沢豊予子

監事：阿曾 洋子、南 裕子

名誉会員

飯田澄美子、稲岡 文昭、氏家 幸子、薄井 坦子、金川 克子、川嶋みどり、
小玉香津子、近藤 潤子、中島紀恵子、林 滋子、樋口 康子、日野原重明、
前原 澄子、松野かほる、矢野 正子、山崎 智子

賛助会員

(株)医学書院、(株)南江堂、(株)日本看護協会出版会、ヌーヴェルヒロカワ、
(株)へるす出版

(以上、五十音順・平成28年11月30日現在)

日本看護科学学会学術集会会長

第36回学術集会会長 第37回学術集会会長 第38回学術集会会長

岡谷 恵子

吉沢 豊予子

佐伯 由香

社員

【北海道】

石垣 靖子
稲葉 佳江
大日向 輝美
河口 てる子
河原田まり子
荃津 智子
中村 恵子
松浦 和代
三国 久美
矢野 理香
山田 律子
良村 貞子

【東北】

朝倉 京子
一戸 とも子
遠藤 芳子
小野 幸子
工藤 せい子
佐藤 富美子
塩飽 仁
武田 淳子
武田 利明
原 玲子
布施 淳子
古瀬 みどり
眞壁 玲子
宮下 光令
吉沢 豊予子
吉田 俊子

【関東A】

飯田 苗恵
岩永 喜久子
上野 恭子
内田 陽子
角田 直枝
金子 昌子
加納 尚美
川口 孝泰
神田 清子
近藤 浩子
佐藤 正美
佐藤 由美
鈴木 純恵
中村 美鈴
成田 伸
春山 早苗

廣瀬 規代美
福島 道子
森 千鶴
横山 京子
吉田 久美子

【関東B】

青木 きよ子
荒木 暁子
荒木田美香子
石井 邦子
石橋 みゆき
太田 喜久子
大塚 眞理子
叶谷 由佳
黒田 久美子
黒田 裕子
酒井 郁子
坂上 明子
佐藤 紀子
佐藤 まゆみ
諏訪 さゆり
田高 悦子
谷本 眞理子
手島 恵
長江 弘子
野地 有子
正木 治恵
眞嶋 朋子
増島 麻里子
宮崎 美砂子
宮脇 美保子
森 恵美
吉田 千文

【東京A】

麻原 きよみ
泉 キヨ子
井上 智子
井部 俊子
及川 郁子
上別府 圭子
亀井 智子
萱間 眞美
齋藤 やよい
眞田 弘美
武村 雪絵
田代 順子
永田 智子

西村 ユミ
深堀 浩樹
堀内 成子
前田 樹海
丸 光恵

森田 夏実
山本 則子

【東京B】

秋山 正子
飯野 京子
柏木 公一
香春 知永
川野 雅資
北 素子
洪 愛子
佐々木 幾美
佐藤 紀子
志自岐 康子
高田 早苗
武田 祐子
鶴田 恵子
野末 聖香
平野 かよ子
福井 トシ子
本庄 恵子
宮子 あずさ
守田 美奈子
吉田 みつ子
綿貫 成明

【甲信越】

浅川 和美
阿部 正子
遠藤 みどり
小林 たつ子
小林 康江
定方 美恵子
清水 嘉子
水野 恵理子
渡邊 タミ子
渡辺 みどり

【北陸】

稲垣 美智子
上野 栄一
川島 和代
紺家 千津子
須釜 淳子
平松 知子

牧野 智恵

【東海】

會田 信子
足立 はるゑ
足立 久子
天野 瑞枝
池松 裕子
岩瀬 信夫
太田 勝正
大津 廣子
大西 文子
岡田 由香
門間 晶子
鎌倉 やよい
紙屋 克子
北山 三津子
黒江 ゆり子
小島 操子
小松 万喜子
杉浦 太一
鈴木 みずえ
多喜田 恵子
深田 順子
古田 加代子
本田 育美
村本 淳子
百瀬 由美子
柳澤 理子
山内 豊明
山田 紀代美

【近畿A】

青山 ヒフミ
阿曾 洋子
荒尾 晴恵
安藤 幸子
上野 昌江
江川 幸二
小笠原 知枝
北村 愛子
工藤 美子
グレッグ美鈴
河野 あゆみ
坂下 玲子
佐藤 禮子
清水 安子
鈴木 久美
鈴木 志津枝

高見沢恵美子
田中 京子
泊 祐子
檜木野 裕美
簗持 知恵子
早川 和生
林 優子
藤原 千恵子
法橋 尚宏
増野 園恵
町浦 美智子
松田 宣子
森 菊子
山本 あい子

【近畿B】

江川 隆子
遠藤 俊子
岡山 寧子
桂 敏樹
我部山キヨ子
河原 宣子
北島 謙吾
小板橋喜久代
田村 恵子
西田 直子
任 和子
野村 陽子
星野 明子
若村 智子

【中国・四国】

秋元 典子
池添 志乃
植田 喜久子
岡本 玲子
雄西 智恵美
掛田 崇寛
國方 弘子
小山 眞理子
佐伯 由香
島内 節
新道 幸恵
祖父江 育子
竹崎 久美子
田中 マキ子
近田 敬子
津島 ひろ江
時長 美希

中西 純子
中野 綾美
中山 洋子
西田 真寿美
乗松 貞子
深井 喜代子
藤田 佐和
保科 英子
南 裕子
宮腰 由紀子
宮下 美香
森本 美智子
森山 美知子
山勢 博彰

【九州・沖縄】

宇佐美しおり
宇都 由美子
浦田 秀子
大池 美也子
岡崎 美智子
奥 祥子
小野 ミツ
嘉手苺 英子
木下 由美子
金城 芳秀
国府 浩子
佐藤 香代
正野 逸子
田中 美智子
堤 由美子
寺町 芳子
中尾 久子
鳩野 洋子
東 サトエ
日高 艶子
藤崎 郁
藤田 君支
前田 ひとみ
松浦 賢長
松尾 ミヨ子
三重野 英子
村嶋 幸代

以上、264名
地区別
五十音順

(平成28年11月30日現在)

総務報告

1. 会員推移（平成28年4月1日～平成28年10月31日）

1) 正会員数増減

①平成28年4月1日正会員数

7,902名＝平成28年3月31日正会員数 8,384名 － 平成28年度資格喪失者 482名

（自主退会204名、会費未納303名）

②平成28年度の入会者

856名＝新規入会774名 ＋ 再入会82名

③平成28年度の死亡喪失者

1名

④会員区分の変更

2名（正会員から名誉会員）

2) 賛助会員増減

なし

3) 名誉会員増減

平成28年度承認

増 2名

近藤 潤子 矢野 正子

減 1名

兼松 百合子

4) 平成28年10月31日現在 会員数

正会員 8,755

名誉会員 16

賛助会員 5

会員総数 8,776

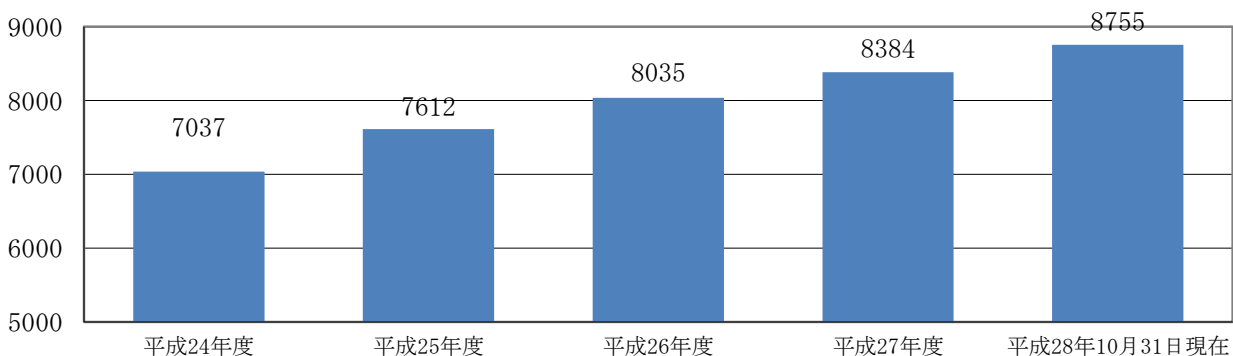
2. 地区別正会員数 8,755名

地区	都道府県	正会員数	地区	都道府県	正会員数	地区	都道府県	正会員数	
北海道	北海道	371	北陸	富山	46	九州・沖縄	福岡	438	
				石川	127		佐賀	52	
東北	青森	134	東海	福井	67		長崎	59	
	岩手	64		静岡	180		熊本	86	
	宮城	155		愛知	465		大分	61	
	秋田	69		岐阜	186		宮崎	65	
	山形	65		三重	158		鹿児島	44	
	福島	44		近畿 A	大阪		517	沖縄	95
関東 A	茨城	130	近畿 B	兵庫	501		宛先不明者		49
	栃木	107	中国・四国	滋賀	108		合計		8,755
	群馬	157		京都	236				
	埼玉	293		奈良	87				
千葉	381	和歌山		27					
神奈川	538	中国・四国	鳥取	37					
東京 A	※1		626	島根	59				
東京 B	※2		712	岡山	185				
甲信越	新潟		99	広島	275				
	長野		106	山口	56				
	山梨		79	徳島	65				
			中国・四国	香川	69				
				愛媛	67				
			高知	158					

※1 千代田区、中央区、港区、台東区、文京区、北区、荒川区、足立区、葛飾区、墨田区、江戸川区、江東区、品川区、大田区、島しょ、海外

※2 渋谷区、目黒区、世田谷区、新宿区、中野区、杉並区、豊島区、板橋区、練馬区、多摩地域

3. 正会員数の推移（年度別）



公益社団法人日本看護科学学会 理事会報告

(平成 28 年 4 月 1 日～平成 28 年 12 月 9 日)

平成 28 年度第 1 回理事会

日 時：平成 28 年 5 月 22 日（日） 13：00～17：30

場 所：日本看護科学学会事務所（東京都文京区本郷 3-37-3 富士見ビル 201 号室）

出席者：理事 11 名、監事 1 名、第 36 回学術集会会長、第 37 回学術集会会長

〈審議事項〉

1. 第 36 回 日本看護科学学会学術集会 (JANS36) の準備状況
2. 第 37 回 日本看護科学学会学術集会 (JANS37) の準備状況
3. 各委員会からの報告および審議事項
 - 1) 総務委員会
 - 2) 和文誌編集委員会
 - 3) 英文誌編集委員会
 - 4) 研究・学術情報委員会
 - 5) 国際活動推進委員会
 - 6) 看護学学術用語検討委員会
 - 7) 看護倫理検討委員会
 - 8) 社会貢献委員会
 - 9) 表彰論文選考委員会 (山上の光賞推薦結果報告含む)
 - 10) 広報委員会
 - 11) 若手研究推進委員会
 - 12) 利益相反委員会
 - 13) 研究倫理審査委員会
 - 14) 災害看護支援事業専門委員会 (災害看護支援事業資金取崩の承認)
 - 15) 他団体との連携について
 - ・日本看護系学会協議会 (選挙管理委員推薦について)
 - ・看護系学会等社会保険連合 (看保連)
4. 本会の公益性について
5. 名誉会員の推薦について
6. 平成 28 年 6 月定例社員総会の議案の承認と進行分担表の確認
 - 1) 平成 27 年度事業報告の承認
 - 2) 平成 27 年度決算の承認
 - 3) 監査報告
7. 就業規則、給与規程、慶弔規程変更案および職務分掌規程の承認

8. 正職員(事務所長)の採用についての承認
9. 入会希望者の承認

平成 28 年度第 2 回理事会

日 時：平成 28 年 6 月 19 日（日） 10：00～10：50

場 所：AP 東京八重洲通り 11 階 O ルーム

(東京都中央区京橋 1 丁目 10 番 7 号 KPP 八重洲ビル 11 階)

出席者：理事 13 名、監事 2 名、第 37 回学術集会会長

〈審議事項〉

1. 平成 28 年 6 月定例社員総会議案について
 - 1) 平成 27 年度事業報告の承認
 - 2) 名誉会員推薦の承認
 - 3) 議事進行および役割分担の確認
2. 第 37 回 日本看護科学学会学術集会(JANS37)の準備状況
3. 各委員会からの審議事項
4. 入会希望者の承認

平成 28 年度第 3 回理事会

日 時：平成 28 年 9 月 4 日（日） 13：00～17：15

場 所：日本看護科学学会事務所（東京都文京区本郷 3-37-3 富士見ビル 201 号室）

出席者：理事 14 名、監事 1 名、第 36 回学術集会会長、第 37 回学術集会会長

〈審議事項〉

1. 第 36 回日本看護科学学会学術集会の準備状況
2. 第 37 回日本看護科学学会学術集会の準備状況
3. 第 39 回日本看護科学学会学術集会（JANS39）会長の候補者選出
4. 各委員会からの報告および審議事項
5. 12 月社員総会の議事次第（案）と欠席者の議決権行使方法についての確認
6. 第 36 回学会総会の議事次第（案）の確認
7. 会計報告（各委員会予算執行状況含む）
8. 日本看護科学学会内部統制案について
9. 契約職員就業規則案の承認
10. 入会希望者の承認
11. その他（故・兼松百合子先生の叙勲についての報告 叙位 従四位 叙勲 瑞宝中綬章）

平成 28 年度第 4 回理事会

日 時：平成 28 年 10 月 23 日（日） 13：00～16：40

場 所：日本看護科学学会事務所（東京都文京区本郷 3-37-3 富士見ビル 201 号室）

出席者：理事 13 名、監事 1 名、第 36 回学術集会会長、第 37 回学術集会会長

〈審議事項〉

1. 第 36 回日本看護科学学会学術集会の準備状況
2. 第 37 回日本看護科学学会学術集会の準備状況
3. 各委員会からの報告および審議事項
4. 会計報告
5. 平成 29 年度各委員会予算案
6. 12 月社員総会の議案の承認および進行分担表の確認
 - 1) 平成 29 年度事業計画案の承認
 - 2) 平成 29 年度予算案の承認
 - 3) 第 39 回日本看護科学学会学術集会（JANS39）会長候補者の承認
7. 第 36 回学会総会の資料（案）および進行分担表の確認
8. 名誉会員推薦についての申し合わせ変更案の承認
9. 平成 29 年選挙における理事候補者の選出数について
10. 契約職員の採用の承認
11. アルバイト就業規則案、嘱託職員就業規則案の承認
12. 入会希望者の承認

平成 28 年度 11 月書面理事会

日 時：平成 28(2016)年 11 月 1 日(火)

（理事会の決議があったものとみなされた日：平成 28 年 11 月 22 日）

出席者：理事 15 名

〈議案〉

日本看護系学会協議会役員選挙における被選挙人推薦について

平成 28 年度第 5 回理事会

日 時：平成 28 年 12 月 9 日（金） 14：00～16：00

場 所：日本教育会館 704 号室（東京都千代田区一ツ橋 2-6-2）

出席者：理事 14 名、監事 2 名、第 37 回学術集会会長

〈審議事項〉

1. 第 37 回日本看護科学学会学術集会の準備状況
2. 平成 28 年 12 月社員総会議案の承認および進行分担表の確認

- 1) 平成 29 年度予算案の承認
- 2) 12 月社員総会進行分担表の確認
3. 第 36 回学会総会資料および進行分担表の確認
4. 各委員会からの審議事項
5. 来年度の理事会日程について
6. 入会希望者の承認

公益社団法人日本看護科学学会 平成28年度委員会名簿

※所属機関名は10月10日現在の会員登録データに基づいています。

委員会	役職・担当	氏名	所属機関名
総務	委員長	麻原 きよみ	聖路加国際大学
	理事	西村 ユミ	首都大学東京
和文誌編集	委員長	深堀 浩樹	東京医科歯科大学
		山本 則子	東京大学大学院
		沢 豊予	東北大学大学院
		浅野 みどり	名古屋大学大学院
		荒木 暁子	千葉県千葉リハビリテーションセンター
		五十嵐 歩	東京大学大学院
		和泉 比佐子	神戸大学大学院
		牛久保 美津子	群馬大学大学院
		内田 陽子	群馬大学大学院
		遠藤 淑美	大阪大学大学院
		久保 暢子	大聖路加国際大学
		落合 亮太	横浜市立大学
		小野 智美	聖路加国際大学
		片岡 弥恵子	聖路加国際大学
		河野 あゆみ	大阪市立大学大学院
		佐伯 圭一郎	大分県立看護科学大学
		佐伯 由香子	愛媛大学
		酒井 明子	福岡女子医科大学
		佐藤 紀安子	大阪大学大学院
		英文誌編集	委員長
グレッグ 美鈴	神戸市看護科学大学院		
西垣 昌和	京都大学大学院		
池田 理恵	岡山県立大学		
石川 陽子	首都大学東京		
石原 逸子	神戸市看護科学大学院		
和泉 成子	Oregon Health & Science University		
梅田 麻希	聖路加国際大学		
江藤 宏美	長崎大学		
岡田 彩子	兵庫県立大学		
尾崎 章子	東北大学大学院		
加藤 藤憲	東神市看護科学大学院		
北岡 和代	金沢大学		
佐々木 美奈子	東京医療保健大学		
鈴木 美穂	がん研有明病院		
田村 恵子	京都大学大学院		
永田 村美	東京大学大学院		
中野 口真	自治医科大学		
野口 真弓	日本赤十字豊田看護大学		
深井 喜代子	岡山大学大学院		
法橋 尚宏	神大大学院		
堀内 成子	聖路加国際大学		
前田 ひとみ	熊本女大		
丸山 昭子	甲南女子大		
丸山 恵子	松陰医大		
森川 恵や	浜大		
山崎 あけみ	大阪大		
研究・学術情報	委員長	酒井 郁子	千葉大学大学院
		西垣 昌和	京都大学大学院
		荒木 暁子	千葉県千葉リハビリテーションセンター
		石橋 みゆき	千葉大学大学院
		大久保 えり	聖路加国際大学
		大田 えり	聖路加国際大学
		小斉 智訓	慶應義塾大学
		田高 悦子	日横市立大学院
深堀 浩樹	東京医科歯科大学		

委員会	役職・担当	氏名	所属機関名
国際活動推進	委員長 委員会	中 山 洋 子 神 原 咲 子 近 藤 暁 子 近 藤 麻 理 子 杉 本 敬 順 子 田 代 順 子 成 瀬 和 子 南 裕 子 柳 澤 理 子	高 知 県 立 大 学 大 学 院 高 知 県 立 大 学 学 学 学 東 京 医 科 歯 科 大 学 学 学 学 東 筑 邦 大 学 学 学 学 聖 路 加 国 際 大 学 学 学 学 東 京 医 科 大 学 学 学 学 高 知 県 立 大 学 学 学 学
看護学術用語検討	委員長 委員会	高 田 早 苗 大 森 純 子 川 原 由 佳 里 小 板 橋 喜 久 代 佐 藤 和 佳 子 野 嶋 佐 由 美	日 本 赤 十 字 看 護 大 学 学 学 学 東 北 大 学 大 学 学 学 学 日 本 赤 十 字 看 護 大 学 学 学 学 京 都 形 立 大 学 学 学 学 高 知 県 立 大 学 学 学 学
看護倫理検討	委員長 委員会	鎌 倉 や よ い 會 田 信 勝 子 太 田 若 麻 理 子 鶴 田 伊 都 子 飛 宮 下 美 香 宮 瀨 由 美 子	日 本 赤 十 字 豊 田 看 護 大 学 学 学 学 信 名 古 屋 大 学 大 学 学 学 学 名 聖 路 加 国 際 大 学 学 学 学 滋 慶 医 療 科 学 大 学 学 学 学 広 島 大 学 大 学 学 学 学 愛 知 県 立 大 学 学 学 学
社会貢献	委員長 委員会	吉 沢 豊 予 子 天 野 雅 美 子 尾 崎 章 香 子 中 村 康 淳 子 布 施 田 樹 海 前 下 村 美 香 宮 山 村 美 枝	東 北 大 学 大 学 学 学 学 学 学 学 東 北 大 学 大 学 学 学 学 学 学 学 東 北 大 学 大 学 学 学 学 学 学 学 山 東 大 学 大 学 学 学 学 学 学 学 京 有 明 医 療 大 学 学 学 学 学 学 広 島 大 学 大 学 学 学 学 学 学 学 日 本 赤 十 字 広 島 看 護 大 学 学 学 学
表彰論文選考	委員長 理事 委員会	真 田 弘 美 鈴 グ レ ッ グ 則 子 山 本 則 淳 子 須 釜 内 朋 子 竹 上 豪 二 朗 宮 山 下 勢 博 彰	東 京 大 市 学 大 学 学 学 学 学 学 学 神 戸 大 市 看 護 大 学 学 学 学 学 学 東 京 大 大 沢 大 大 大 大 大 大 大 東 京 大 大 京 大 大 大 大 大 大 大 東 京 大 大 北 大 大 大 大 大 大 大 山 口 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大
広報	委員長 委員会	勝 原 裕 美 子 大 坂 和 裕 美 子 大 北 村 愛 子 本 田 順 子	東 横 京 慈 恵 会 医 科 大 学 学 学 学 横 浜 市 立 大 学 大 学 学 学 学 大 阪 府 立 大 学 大 学 学 学 学 神 戸 大 学 大 学 学 学 学 学 学 学
若手研究推進	委員長 委員会	西 村 ユ ミ 岩 國 亜 紀 子 大 澤 絵 里 子 坂 井 志 織 子 鳥 本 吉 靖 子 濱 本 美 穂 子 丸 尾 智 実 子 綿 貫 成 明 子	首 都 大 学 東 京 学 学 学 学 学 学 学 兵 庫 大 県 立 大 学 学 学 学 学 学 学 国 立 保 健 医 療 科 学 大 学 学 学 学 首 都 大 学 学 学 学 学 学 学 学 学 国 際 医 療 福 祉 大 学 学 学 学 学 学 佛 南 教 女 子 大 学 学 学 学 学 学 甲 南 看 護 大 学 学 学 学 学 学 学 国 立 看 護 大 学 学 学 学 学 学 学 学
利益相反	委員長 理事 委員会	吉 沢 豊 予 子 麻 原 上 富 美 子 跡 稻 垣 美 智 宏 法 橋 尚 子	東 北 大 学 大 学 学 学 学 学 学 学 聖 路 加 北 沢 大 大 大 大 大 大 大 東 京 神 戸 大 学 大 学 学 学 学 学 学 金 沢 大 学 大 学 学 学 学 学 学 学
研究倫理審査	委員長 副委員長 外部委員 外部委員 外部委員	井 上 智 子 武 田 祐 子 香 隈 本 邦 彦 戸 塚 理 実 友 納 理 緒	国 立 看 護 大 学 学 学 学 学 学 学 慶 應 義 塾 大 学 学 学 学 学 学 学 武 蔵 野 大 学 学 学 学 学 学 学 東 京 医 科 歯 科 大 学 学 学 学 学 学 土 肥 法 律 事 務 所 学 学 学 学 学 学
災害看護支援専門	委員長 理事 理事 JANA 役員 JANA 役員	中 山 洋 子 麻 原 上 智 予 子 井 沢 豊 予 子 高 山 本 あ い 苗 子	高 知 県 立 大 学 大 学 学 学 学 学 学 聖 路 加 国 際 大 学 学 学 学 学 学 国 立 看 護 大 学 学 学 学 学 学 学 東 北 大 学 学 学 学 学 学 学 学 日 本 赤 十 字 看 護 大 学 学 学 学 兵 庫 県 立 大 学 学 学 学 学 学 学
選挙管理	委員長 副委員長	高 木 廣 文 野 口 眞 智 弓 岡 美 智 代 子 桑 名 佳 代 子 二 宮 啓 子	共 立 女 子 大 学 学 学 学 学 学 学 日 本 赤 十 字 豊 田 看 護 大 学 学 学 学 群 馬 大 学 学 学 学 学 学 学 学 立 馬 城 大 学 学 学 学 学 学 学 神 戸 市 看 護 大 学 学 学 学 学 学 学

委員会活動報告

(平成 28 年 1 月～12 月)

(1) 総務委員会

- ・入会審査、会員データ管理
 - 正会員数：8,755 名（平成 28 年 10 月 31 日現在）
 - 会員マイページ利用による更新：2,177 件
（平成 28 年 1 月 1 日～平成 28 年 10 月 31 日）
 - 正会員メールアドレス登録状況：8,607 件（全会員の 98.4%）
- ・会員向け一斉メール配信状況の把握
- ・理事会、社員総会の議事録の確認
- ・事務所業務遂行状況確認（定期的な事務所訪問と職員面談の実施）
- ・就業規則、賃金規程等の各種規程の整備

(2) 和文誌編集委員会

- ・日本看護科学会誌 36 巻（電子ジャーナル）の発刊
- ・編集出版業務を国際文献社から中西印刷に変更し、平成 28 年 1 月 1 日より、電子投稿システム ScholarOne Manuscripts（日本代理店 杏林舎）を利用
- ・平成 28 年 1 月以降の投稿論文数：86 論文（平成 28 年 10 月 21 日現在）
- ・査読過程の変更とそれに伴う投稿規程、査読ガイドラインの変更を検討中
- ・和文誌セミナーの実施（平成 29 年 3 月予定）に向け準備中
「論文の作成・投稿のプロセスと査読のあり方（仮題）」

(3) 英文誌編集委員会

- ・Japan Journal of Nursing Science Vol.13 のオンライン発刊
- ・平成 28 年 1 月以降の投稿論文数：275 論文（平成 28 年 10 月 14 日現在）
- ・JJNS セミナー の開催（平成 28 年 11 月 12 日）
“Improving Your Success at Publishing in English 2016 : The Challenges of Being a Peer Reviewer for Journal Articles”
- ・若手研究者支援事業については実施したが投稿がなく、今年度は中止となった。
- ・JJNS プロモーションとして、平成 27 年受賞論文をフリーアクセス化
- ・平成 27 年度の impact factor は、0.458 であった（平成 28 年 6 月発表による）。

(4) 研究・学術情報委員会

- ・第 7 回 JANS セミナー開催（平成 28 年 3 月 26 日）
テーマ：エビデンスを統合するーシステムティックレビューとメタ統合ー
参加人数：会場受講 428 名（会員 196 名、非会員 42 名）、Web 受講 190 名（会員のみ）

- ・第8回JANSセミナー開催（平成28年6月19日）
 テーマ：介入研究ことはじめーデザインと実施ー
 参加人数：会場受講 225名（会員 184名、非会員 41名）、Web受講 456名（会員のみ）
- ・「看護・保健分野の政策提言のための研究課題の優先順位の特定および研究推進の Strategic Plan の設定」について調査中
- ・看護系学会等社会保険連合関連委員会の情報交換会出席

(5) 国際活動推進委員会

- ・異文化データベースの見直し
 JANS35 交流集会にてデータベースに協力できる会員を募り、現在、データベース入力のトライアルを検討している。
- ・「看護系大学院教育のグローバル化」に関する状況調査結果を JANS36 交流集会にて報告
 看護学のグローバルスタンダードや国際看護学教育のあり方の検討
- ・国際看護・国際保健に関わる会員のネットワークの構築

世界看護科学学会（World Academy of Nursing Science : WANS）

- ・第5回 WANS 学術集会について WANS 事務局として開催を支援
 - 2017年10月20日～22日 Thailand (Bangkok)
 - Thailand Nursing and Midwifery Council (TNMC) と共同開催
 - 会長 Dr. Tassana Boontong

(6) 看護学学術用語検討委員会

- ・本委員会にて検討された学術用語の利用実態を知るために、Web 調査を実施
- ・看護学における学術用語及び概念開発に関する議論をホームページにて発信

(7) 看護倫理検討委員会

- ・研究者が研究活動における不正防止及び倫理の遵守に関して、どのように実行しているのかについて Web 調査を実施。JANS36 交流集会にて報告。
- ・研究倫理に関する啓発活動として、既存の e-learning を JANS ホームページにて紹介（ICR 臨床研究入門、eLCoRE）。
- ・個人情報保護法等の改正に伴う「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」の改正に関するパブリックコメントについて検討。

(8) 社会貢献委員会

- ・JANS36 市民フォーラム（12月11日）企画・運営

身終い～人生の終え方～

- ・ JANS36 ナーシング・サイエンス・カフェ（12月11日）企画・運営
看護職を志向するあなたへー看護の多様な働き方紹介しますー

(9) 表彰論文選考委員会

- ・ 表彰論文選考手順の一部改正（来年度より実施）
- ・ 優秀賞、奨励賞論文を審査・選考し、理事会にて承認を得た。

【優秀賞】

- (ORIGINAL ARTICLES) Kyoko Asazawa

Effects of a partnership support program for couples undergoing fertility treatment.

Japan Journal of Nursing Science 2015;12(4),354-366

- (ORIGINAL ARTICLES) Tomoko Kamei, Fumiko Kajii, Yuko Yamamoto, Yukako Irie,
Rumi Kozakai, Tomoko Sugimoto, Ayako Chigira and Naoakira Niino

Effectiveness of a home hazard modification program for reducing falls in urban
community-dwelling older adults: A randomized controlled trial.

Japan Journal of Nursing Science 2015;12(3),184-197

【奨励賞】

- (ORIGINAL ARTICLES) Michiko (Nakakita) Kenyon

Randomized controlled trial on the relaxation effects of back massages for puerperants on the
first post-partum day.

Japan Journal of Nursing Science 2015;12(2),87-98

- (ORIGINAL ARTICLES) Chie Teramoto, Atsushi Matsunaga and Satoko Nagata

Cross-sectional study of social support and psychological distress among displaced earthquake
survivors in Japan.

Japan Journal of Nursing Science 2015;12(4),320-329

(10) 広報委員会

- ・ JANS36 広報活動

学術集会の記録、市民フォーラム、ナーシング・サイエンス・カフェのフライヤー作成

- ・ 学会 HP 内容の更新・整理
- ・ 他機関からのリンク依頼に関する基準の設置
- ・ 研究を実践へトランスレーションするための広報

日本看護科学会誌で発表された研究を看護実践者（および他職種の専門家）に親しんでもらうための広報方法の検討

(11) 若手研究推進委員会

- ・ JANS36 交流集会、若手ステップアップ研修、若手ブース（広報、未来像の収集等）の企画、モーニングセッションのファシリテーター、交流の企画
- ・ JANS 若手の会ホームページでの情報発信
- ・ 若手の研修ニーズ調査の実施
- ・ JANS 若手メーリングリストによる情報の発信
- ・ 日本学術会議主催 公開シンポジウムの参加と情報の発信
- ・ 第9回 JANS セミナーの企画
- ・ エリア・コーディネーターの組織化

(12) 利益相反委員会

- ・ 役員、学術集会会長、各委員会委員の利益相反申告書の内容確認
- ・ 学会誌投稿時の利益相反申告を実施（平成 28 年 4 月 1 日より）
- ・ 学術集会演題登録時の利益相反申告を実施（JANS36 より）
- ・ セミナー、学術集会等の講師の利益相反申告を実施
- ・ 「日本看護科学学会における学術活動の利益相反に関する指針」の細則の一部改正

(13) 研究倫理審査委員会

- ・ 1 件の申請があり、簡易審査を行った
- ・ 本会委員会活動における研究（調査）を対象とした研究倫理審査に関する申し合わせを策定

(14) 災害看護支援事業専門委員会

日本看護系学会協議会と連携した助成事業の終了により「災害看護支援事業専門委員会」は、5 年間の活動をもって終了するが、今後、災害等の緊急事態が発生した場合は、臨時委員会を組織するなどして対応していく。

共同事業のために設けた募金口座の残金は、JANS 及び JANA 理事会、社員総会の承認を得て、公益社団法人熊本県看護協会へ全額寄付した。

(15) 他機関との連携活動

① 日本看護系学会協議会

- ・ 平成 28 年度総会出席（平成 28 年 6 月 29 日）
場所：日本赤十字看護大学広尾キャンパス

議案：平成 27 年度会計報告、災害看護支援について、平成 28 年度事業活動案・予算案について 他

- ・ JANA 平成 29 年度役員選挙に関わる選挙管理委員の推薦

② 看護系学会等社会保険連合（看保連）

- ・ 平成 28 年度社員総会出席（平成 28 年 4 月 25 日）

場所：聖路加国際大学

議案：平成 27 年度決算、平成 28 年度事業計画・予算案

- ・ 理事会へ出席

平成 30 年度診療報酬・介護報酬同時改訂に向けた要望書の作成について 他

- ・ 研究助成対象者の推薦

③ 日本学術会議

日本学術会議から提供のあったニュース・メールを役員に提供

④ その他の機関

山上の光賞への近藤潤子氏の推薦・受賞

第 2 回山上の光賞 5 月 10 日に授賞式が行われた（於：ANA インターコンチネンタルホテル 東京）。

日本医療安全調査機構

医療事故個別調査部会員を推薦

(16) 選挙管理委員会

- ・ 平成 28 年 9 月 22 日 第 1 回選挙管理委員会開催

理事候補者選挙準備（選挙日程決定、公示文書作成、選挙人・被選挙人確認、Web 選挙システム投票要領作成）

電子投票受付期間：平成 29 年 2 月 1 日（水）正午～26 日（日）23：59

開票：平成 29 年 2 月 27 日（月） 午前 11 時より

第1号議案

公益社団法人 日本看護科学学会 平成29年度事業計画（案）

（平成29年4月1日～平成30年3月31日）

(1) 学術集会

- ・第37回日本看護科学学会学術集会開催
学術集会長：吉沢豊予子(東北大学)
日程：平成29(2017)年 12月16日(土)・17日(日)
場所：仙台国際センター 会議棟・展示棟
- ・第38回日本看護科学学会学術集会準備
学術集会長：佐伯由香(愛媛大学)
日程：平成30(2018)年 12月15日(土)・16日(日)
場所：ひめぎんホール
- ・第39回日本看護科学学会学術集会準備

(2) 総務委員会

- ・入会審査を行う。
- ・会員管理データシステムの稼働状況を把握し、会員向けのコミュニケーションサービス(一斉メールの配信、学術集会・セミナー参加登録、Web選挙等)の充実を目指す。
- ・本会の目的を達成し、持続可能な事務所職員体制を確立するために、各職員が立てた業務目標についてその達成度を評価・査定する。また職員のスキルアップを図るため研修へ参加する機会を設け、より一層の事務所機能の効率化と強化を図る。

(3) 和文誌編集委員会

- ・日本看護科学学会誌第37巻を発行する。
- ・新査読ガイドラインに則り、査読システムの効果的運用と質向上をはかる。
- ・学会誌への投稿を促進し、原著論文・総説の増加を図る。
- ・和文誌編集委員、査読者の活動を支援する教育プログラム(交流集会)を開催する。
- ・投稿論文の図表・引用文献の記載に関するイニシャルチェックを中西印刷株式会社に委託する。

(4) 英文誌編集委員会

- ・Japan Journal of Nursing Science Vol. 14を発行する。
- ・JJNSセミナーを開催する。
- ・JJNSプロモーション活動を実施する。
- ・若手研究者の支援活動をする。

(5) 研究・学術情報委員会

看護学の専門分野横断的研究、学際的研究、国際的研究の推進を目的に、以下の事業を実施する

- ・看護における優先研究課題に関する情報収集および発信
- ・研究者ネットワーク構築
 - －看護系学会、関連領域学会との連携事業(研究プロジェクト、セミナー等のイベント)の推進
 - －交流集会、シンポジウムの開催
 - －研究助成、留学助成実施可能性の検討
- ・看護学研究者の研究能力向上のための事業
 - －JANS セミナーの開催
 - －教育資料(セミナー講義、資料)のアーカイブ化

(6) 国際活動推進委員会

- ・JANS ホームページ内の「異文化看護データベース」を「グローバル看護データベース」に名称を変更し、再構築することに取り組む。
- ・世界看護科学学会(WANS)事務局として2017年10月20日～22日にバンコク(タイ国)で開催される学術集会の準備を行うとともに、学術集会と合わせてWANS理事会を開催する。また、WANS事務局としてHPの維持管理、WANSネットワークの拡大を行う。

(7) 看護学学術用語検討委員会

- ・看護学学術用語の検討に関する議論の発信
- ・看護学学術用語の検討
 - 一般社会や当事者との協働をふまえた用語の検討
 - 看護実践を表す新しい用語の掘り起こし
 - 学術用語に関する調査より「検討してほしい」との意見のあった用語の検討

(8) 看護倫理検討委員会

- ・研究倫理の遵守及び研究活動不正防止について啓発活動を行う。
- ・看護学が関連する倫理的社会的社会事象に対する情報収集と対応案を検討する。

(9) 社会貢献活動

- ・第37回学術集会に向けた社会貢献事業を検討し準備する。

- ・第 37 回学術集会での「市民フォーラム」および「ナーシング・サイエンス・カフェを開催する。
- ・JANS としての社会貢献のあり方を検討する。

(10) 表彰論文選考委員会

- ・表彰論文の選考を行い公表する。

(11) 広報委員会

- ・学会広報媒体の作成・維持・管理(①HP の維持・管理②他委員会との連携による学会活動の広報③学会活動やイベント学術集会の記録④学会広報媒体の評価と改善)を行う。
- ・WANS に関連した広報(①WANS 学術集会の広報 ②WANS 学術集会における JANS の広報)を行う。
- ・学術集会に関する広報活動(次回学術集会企画委員会、社会貢献委員会との連携による学術集会の広報活動)を行う。
- ・研究を実践へトランスレーションするための広報(新事業)

(12) 若手研究推進委員会

- ・学術集会の交流集会、若手研究者のニーズに沿った研修を企画運営し、若手の研究活動推進に努める。
- ・国内外の多様な学問分野における若手研究者との交流を図り、情報を発信し学際的な視点を養う素地をつくる。
- ・「若手の会」専用の HP の管理・更新を通して、活動を公表、周知、意見交換やニーズ把握と、若手研究者が学び集える場を整備する。
- ・各地域で「若手の会」の活動を牽引する「エリア・コーディネーター」を育成し、若手研究者が各地域で活躍できる基盤をつくる。
- ・メーリングリストを介して、情報交換や相互交流を促進する。

(13) 利益相反委員会

- ・役員、委員会委員、和文誌・英文誌投稿者、学術集会における発表者を対象に COI を実施し、評価を行う。
- ・利益相反における問題が生じた折の対処をする。

(14) 研究倫理審査委員会

- ・申請があり次第、倫理審査(メール審査、委員会招集審査のいずれか)を行う。
- ・その他、研究倫理審査に関わる事項の検討をする。

(15)他機関との連携

下記の各機関と連携し、依頼事項に対応する。

- ① **日本看護系学会協議会**
- ② **看護系学会等社会保険連合（看保連）**
- ③ **日本学術会議**

(16) 選挙管理委員会

- ・理事候補者選挙結果より理事候補者名簿を作成し理事会へ提出する。
- ・次期選挙管理委員会への申し送り事項を整理する。

平成29年度 収支予算書(案)
平成 29年 4月 1日 から平成30年 3月 31日 まで

科 目	備考	平成29年度 予算額 (H. 29. 4. 1～ H. 30. 3. 31)	平成28年度 予算額 (H. 28. 4. 1～ H. 29. 3. 31)	差異
I 事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
①特定資産運用収入		1,000	1,000	0
特定資産受取利息収入		1,000	1,000	0
②会費収入		91,800,000	88,800,000	3,000,000
正会員会費収入	※1	91,500,000	88,500,000	3,000,000
賛助会員会費収入	※2	300,000	300,000	0
③学会誌収入		590,000	480,000	110,000
④寄附金・助成金収入(学術集会含まず)	※3	1,500,000	0	1,500,000
⑤雑収入		5,496,000	4,525,000	971,000
受取利息収入		1,000	3,000	△ 2,000
著作権料収入		250,000	200,000	50,000
セミナー収入		5,245,000	4,322,000	923,000
JANSセミナー	※4	3,880,000	2,677,000	1,203,000
JJNSセミナー		1,365,000	1,645,000	△ 280,000
その他雑収入		0	0	0
⑥学術集会収入		50,885,000	53,758,000	△ 2,873,000
学術集会参加費収入		41,050,000	41,400,000	△ 350,000
事前登録会員(10,000円)		17,000,000	15,000,000	2,000,000
事前登録非会員(12,000円税込)		6,000,000	5,400,000	600,000
事前登録学部生(3,000円税込)		30,000	150,000	△ 120,000
当日登録会員(12,000円)	※5	14,400,000	14,400,000	0
当日登録非会員(14,000円税込)		3,500,000	6,300,000	△ 2,800,000
当日登録学部生(3,000円税込)		120,000	150,000	△ 30,000
寄附金・助成金収入		0	1,000,000	△ 1,000,000
広告販売収入		9,385,000	10,358,000	△ 973,000
企業展示出展料		5,249,000	4,806,000	443,000
広告掲載料		2,840,000	2,549,000	291,000
スポンサードセミナー		1,296,000	3,003,000	△ 1,707,000
懇親会収入		450,000	950,000	△ 500,000
雑収入		0	50,000	△ 50,000
事業活動収入合計(I a)		150,272,000	147,564,000	2,708,000
2. 事業活動支出				
①事業費支出		83,643,000	89,743,000	△ 6,100,000
学会誌発行費支出		19,800,000	19,212,000	588,000
和文誌編集費支出	※6	3,970,000	3,300,000	670,000
英文誌編集費支出	※7	15,830,000	15,912,000	△ 82,000
編集活動費支出		1,885,000	2,075,000	△ 190,000
和文誌編集委員会費支出		700,000	830,000	△ 130,000
英文誌編集委員会費支出		1,185,000	1,245,000	△ 60,000
看護学術振興費支出		5,802,000	4,256,000	1,546,000
研究・学術情報委員会費支出		1,420,000	960,000	460,000
国際活動推進委員会費支出	※8	2,195,000	680,000	1,515,000
看護学学術用語検討委員会費支出		847,000	1,186,000	△ 339,000
看護倫理検討委員会費支出		450,000	600,000	△ 150,000
表彰論文選考委員会費支出		180,000	220,000	△ 40,000
若手研究推進委員会支出		710,000	610,000	100,000
災害看護支援事業専門委員会支出		0	0	0
研究学術活動支援費支出		7,050,000	5,078,000	1,972,000
受賞論文表彰費支出		185,000	180,000	5,000
研究倫理審査委員会費		120,000	120,000	0
利益相反委員会費支出	※9	—	456,000	△ 456,000
データベース構築事業支出	※10	1,500,000	0	1,500,000
JANSセミナー開催費	※11	3,880,000	2,677,000	1,203,000
JJNSセミナー開催費		1,365,000	1,645,000	△ 280,000
社会的活動費支出		1,035,000	1,738,000	△ 703,000
社会貢献委員会支出(市民フォーラム開催費含む)		535,000	868,000	△ 333,000
広報委員会費支出(公益目的事業分)	※12	500,000	870,000	△ 370,000
総務費支出		—	35,000	△ 35,000
総務委員会費支出	※13	—	35,000	△ 35,000

科 目	備考	平成29年度 予算額 (H. 29. 4. 1~ H. 30. 3. 31)	平成28年度 予算額 (H. 28. 4. 1~ H. 29. 3. 31)	差異
学術集会費支出		48,071,000	57,349,000	△ 9,278,000
当年度開催学術集会		45,292,000	55,149,000	△ 9,857,000
会場費支出		25,108,000	37,623,000	△ 12,515,000
会議費支出		2,026,000	2,085,000	△ 59,000
旅費交通費支出		1,710,000	2,300,000	△ 590,000
消耗品費支出		747,000	350,000	397,000
通信運搬費支出(プログラム送料含む)	※14	1,313,000	468,000	845,000
印刷製本費支出(プログラム印刷含む)		5,628,000	1,532,000	4,096,000
委託費支出		6,650,000	6,616,000	34,000
人件費支出		21,000	674,000	△ 653,000
謝金支出		984,000	891,000	93,000
賃借料支出		0	250,000	△ 250,000
渉外費支出		0	150,000	△ 150,000
雑支出		305,000	1,130,000	△ 825,000
懇親会運営費支出		800,000	1,080,000	△ 280,000
次年度開催学術集会(準備期間)		2,779,000	2,200,000	579,000
会場費支出		0	0	0
会議費支出		40,000	70,000	△ 30,000
旅費交通費支出		40,000	500,000	△ 460,000
消耗品費支出		409,000	20,000	389,000
通信運搬費支出(学術集会のご案内送料含む)		947,000	801,000	146,000
印刷製本費支出(学術集会のご案内印刷含む)		608,000	609,000	△ 1,000
委託費支出		519,000	200,000	319,000
人件費支出		216,000	0	216,000
謝金支出		0	0	0
賃借料支出		0	0	0
渉外費支出		0	0	0
雑支出		0	0	0
②管理費支出		54,896,000	54,789,000	107,000
給料手当支出	※15	22,200,000	21,330,000	870,000
福利厚生費支出		3,800,000	3,150,000	650,000
通勤費支出		1,700,000	1,800,000	△ 100,000
退職給付支出		300,000	300,000	0
学会総会費	※16	400,000	500,000	△ 100,000
社員総会費		4,000,000	3,900,000	100,000
理事会費		3,100,000	2,650,000	450,000
委託費支出	※17	5,880,000	5,260,000	620,000
渉外費支出		30,000	30,000	0
旅費交通費支出	※18	380,000	40,000	340,000
通信運搬費支出	※19	2,368,000	2,130,000	238,000
消耗品費支出		2,120,000	2,320,000	△ 200,000
印刷製本費支出		82,000	96,000	△ 14,000
慶弔費支出		50,000	50,000	0
光熱水料費支出		735,000	804,000	△ 69,000
賃借料支出	※20	3,840,000	4,630,000	△ 790,000
保険料支出		85,000	85,000	0
諸謝金支出		50,000	50,000	0
租税公課支出	※21	1,072,000	1,072,000	0
負担金支出	※22	150,000	150,000	0
修繕費支出	※23	50,000	202,000	△ 152,000
資格喪失者会費支出	※24	—	2,000,000	△ 2,000,000
雑支出		1,640,000	1,500,000	140,000
総務費支出		864,000	740,000	124,000
総務委員会費支出	(※13)	35,000	0	35,000
利益相反委員会費支出	(※9)	109,000	0	109,000
広報委員会費支出(法人会計分)	(※12)	370,000	0	370,000
選挙費用支出	※25	350,000	740,000	△ 390,000
事業活動支出合計(I b)		138,539,000	144,532,000	△ 5,993,000
事業活動収支差額(I a)-(I b)		11,733,000	3,032,000	8,701,000
Ⅱ 什器備品購入支出		108,000	105,000	3,000
Ⅲ 予備費支出		3,000,000	3,000,000	0
当期収支差額		8,625,000	△ 73,000	8,698,000
前期繰越収支差額		96,219,463	96,292,463	△ 73,000
次期繰越収支差額		104,844,463	96,219,463	8,625,000

- ※1 平成29年4月1日時点での会員数を8,700名、新入会者・再入会者850名、資格喪失者400名と見積もり、合計請求人数を9,150名として計上。
- ※2 ㈱日本看護協会出版会2口、㈱医学書院・㈱南江堂・㈱へるす出版・(有)ヌーヴェルヒロカワ各1口。会費1口5万円。
- ※3 グローバル看護データベースの構築費用として科研費(150万円)を平成28年11月に応募している。(国際活動推進委員会)
- ※4 会員限定で募集をするWeb受講者が増加傾向にあるため収入の増加を見込んでいる。
- ※5 JANS37学術集会の参加費は据え置く。
- ※6 日本看護科学会誌(電子ジャーナル)制作費、編集関連経費及びオンライン投稿・査読システム(ScholarOne Manuscripts)利用料。平成29年度より投稿論文イニシャルチェックを依頼するため増額している。
- ※7 JJNS(Online Journal)の編集費、編集事務費、英文誌編集長謝金(旅費交通費を含め年間260万円)。
- ※8 世界看護科学学会(WANS)事務局業務を担っている。平成29年10月に開催される第4回WANS学術集会(バンコク・タイ国)の開催準備、WANS理事会に出席するための旅費および、グローバル看護データベース構築に関する科研費対象外経費等を計上している。
- ※9 【これまで事業費に計上していた、利益相反委員会活動費を公益認定上の区分に準じて管理費に計上している】
- ※10 科研費(※3)を充当するため独立事業として新設した。グローバル看護データベース構築費用に関する対象費用を計上している。
- ※11 年に2回(6月・3月頃)開催する。民間施設使用および、参加者増加による資料印刷部数の増加により増額している。
- ※12 【これまで事業費に計上していた、広報委員会の活動費のうち、公益目的事業(市民フォーラム、ナーシング・サイエンス・カフェなど)に携わる費用を事業費に計上し、委員会開催費(会議費・旅費交通費)を管理費に計上している】
- ※13 【これまで事業費に計上していた、総務委員会活動費を公益認定上の区分に準じて管理費に計上している】
- ※14 JANS37学術集会はプログラム集を発行する予定のため、通信運搬費と印刷製本費が増加している。
- ※15 正職員4名、契約職員1名(育児休暇中の正職員の交代要員)、パート2名(週1~3日勤務)の給与・賞与。
- ※16 理事交代に伴う臨時理事会を1回(7月頃)開催するため理事会費が増額加している。定例理事会6回(5月、6月、9月、10月、12月、2月)、社員総会2回(6月・12月/民間会議場使用)、学会総会1回(12月/学術集会の会場を使用)。
- ※17 【法人として必要】
 会計事務所(136万円)<会計顧問料(77万)、内閣府提出書類作成料(11万)、司法書士(5万円)、社会保険労務士(43万円)>、
 公認会計士監査報酬(36万円)、顧問弁護士(39万円)
 【学会事業に直接必要】
 会員管理システム利用料(199万円)<基本利用料(96万)、会費コンビニ決済機能(22万)、学術集会参加登録・行事管理機能(67万)、アンケート機能(14万)>、JANSホームページ年間維持更新管理料(67万円)、ホームページ英訳費用(32万円)、英文誌編集長契約事務手続き(5万円)、Web会議システムV-CUBE(44万円)、封入委託費(9万円)
 【事務所運営費】
 事務所警備委託費(21万円)
- ※18 事務所職員の出張に伴う交通費。第37回学術集会は仙台開催のため、前年度(東京開催)より増額している。通勤費は「通勤手当」に別途計上している。
- ※19 新任の理事、委員、査読委員へ委嘱状、理事長就任の挨拶状を送付するため増額している。
- ※20 事務所賃借料、コピー機リース料、紙折り機リース料。なお、複合機の機種変更に伴い「複合機リース料」を本項目に計上していないため賃借料支出が減少している。(公益法人会計基準により賃借料ではなく債務計上している)
- ※21 収益事業(学会誌販売収入、著作権収入、学術集会に伴う広告販売収入)に関わる法人税および法人事業税は0円、法人住民税約7万円(均等割分のみ)。消費税課税売上高(学術集会非会員参加費収入、広告販売収入、学会誌販売収入など)に係る消費税(本則課税方式)。
- ※22 日本看護系学会協議会8万円、看護系学会等社会保険連合(看保連)7万円。
- ※23 複合機の機種変更に伴い保守管理料が減少している。
- ※24 活動経費支出ではないため予算から削除する。決算時に正味財産増減計算書に表示される。
- ※25 選挙後の役員新任投票にかかわる費用。

【特定資産積立金】

将来において生じる支出のために、会計基準に従って計算した金額を毎年積み立て、特定資産として管理をしている。当該費用が発生した場合は積立金から支出をする。

科目	平成29年度積立金額 (単位:円)	備考
①選挙費用積立預金	1,000,000	代議員選挙(4年に1度)、役員候補者選挙(2年に1度)に関わる費用
②退職給付引当資産	1,510,000	正職員の退職金

第2号議案

平成29年度 収支予算書(案)

平成29年4月1日から平成30年3月31日

公益社団法人 日本看護科学学会

科目	公益目的事業						収益事業等			法人会計	合計
	学術振興	学会誌	学術集会	市民講座等	共通	計	広告販売	連携事業	計		
I 一般正味財産増減の部											
1. 経常増減の部											
(1) 経常収益											
受取会費											
正会員受取会費					45,750,000	45,750,000				45,750,000	91,500,000
賛助会員受取会費					300,000	300,000					300,000
事業収益											
学会誌収益(講演集含む)		590,000				590,000					590,000
学術集会参加費			41,050,000			41,050,000					41,050,000
広告販売収入							9,385,000		9,385,000		9,385,000
寄付金・助成金	1,500,000					1,500,000					1,500,000
雑収益											
受取利息										2,000	2,000
著作権料		250,000				250,000					250,000
懇親会収入										450,000	450,000
セミナー収益	3,880,000	1,365,000				5,245,000					5,245,000
その他の雑収入											
経常収益計	5,380,000	2,205,000	41,050,000		46,050,000	94,685,000	9,385,000		9,385,000	46,202,000	150,272,000
① 事業費											
学会誌発行費		19,800,000				19,800,000					19,800,000
受賞論文表彰費		185,000				185,000					185,000
助成金											
会場費	1,196,000	400,000	24,669,285	100,000		26,365,285	438,715		438,715		26,804,000
会議費	151,000	230,000	2,029,901	41,000		2,451,901	36,099		36,099		2,488,000
旅費交通費	3,462,601	1,066,385	1,808,925	210,670		6,548,581	33,691	3,113	36,804		6,585,385
消耗品費	822,776	242,990	1,635,135	106,052		2,806,953	37,567	17,368	54,935		2,861,888
通信運搬費	865,514	276,736	2,778,258	144,100		4,064,608	58,889	19,400	78,289		4,142,897
印刷製本費	970,413	177,852	6,146,352	101,008		7,395,625	109,634	672	110,306		7,505,931
委託費	4,203,828	1,163,011	8,553,946	172,258		14,093,043	48,172	48,172	96,344		14,189,387
諸謝金	786,000	580,000	984,000	230,000		2,580,000					2,580,000
雑費	458,279	217,030	685,949	43,154		1,404,412	18,765	13,436	32,201		1,436,613
賃借料	955,969	367,680	904,455	47,189		2,275,293	31,459	31,459	62,918		2,338,211
租税公課	101,369	88,040	454,398			643,807	392,220		392,220		1,036,027
通勤手当	423,216	162,775	400,410	20,891		1,007,292	13,927	13,927	27,854		1,035,146
退職給付費用	375,915	144,583	355,658	18,556		894,712	12,371	12,371	24,742		919,454
福利厚生費	946,011	363,850	895,033	46,697		2,251,591	31,132	31,132	62,264		2,313,855
光熱水料費	182,978	70,376	173,118	9,032		435,504	6,022	6,022	12,044		447,548
修繕費	12,447	4,788	11,777	614		29,626	410	410	820		30,446
火災保険料	21,161	8,139	20,020	1,045		50,365	696	696	1,392		51,757
減価償却費					13,889	13,889	192	192	384		14,273
給料手当(委員会等人件費含む)	6,836,697	2,395,653	5,465,879	312,811		15,011,040	181,874	181,874	363,748		15,374,788

科目	公益目的事業						収益事業等			法人会計	合計
	学術振興	学会誌	学術集会	市民講座等	共通	計	広告販売	連携事業	計		
②管理費											
懇親会費										800,000	800,000
学会総会費										400,000	400,000
社員総会費										4,000,000	4,000,000
理事会費										3,100,000	3,100,000
会場費											
会議費										40,000	40,000
旅費交通費										702,615	702,615
消耗品費										829,112	829,112
通信運搬費										941,103	941,103
印刷製本費										32,069	32,069
委託費										2,551,613	2,551,613
諸謝金										50,000	50,000
雑費										644,387	644,387
租税公課										35,973	35,973
通勤手当										664,854	664,854
退職給付費用										590,546	590,546
福利厚生費										1,486,145	1,486,145
光熱水料費										287,452	287,452
賃借料										1,501,789	1,501,789
修繕費										19,554	19,554
火災保険料										33,243	33,243
減価償却費										9,167	9,167
渉外費										30,000	30,000
慶弔費										50,000	50,000
支払負担金										150,000	150,000
支払寄付金											
給料手当（委員会等人件費含む）										8,682,212	8,682,212
経常費用計	22,772,174	27,944,888	57,972,499	1,605,077	13,889	110,308,527	1,451,835	380,244	1,832,079	27,631,834	139,772,440
当期経常増減額	-17,392,174	-25,739,888	-16,922,499	-1,605,077	46,036,111	-15,623,527	7,933,165	-380,244	7,552,921	18,570,166	10,499,560
2. 経常外増減の部											
(1) 経常外収益											
経常外収益計											
(2) 経常外費用											
経常外費用計											
当期経常外増減額											
他会計振替額					7,575,428	7,575,428	-7,575,428	0	-7,575,428		
税引前当期一般正味財産増減額	-17,392,174	-25,739,888	-16,922,499	-1,605,077	53,611,539	-8,048,099	357,737	-380,244	-22,507	18,570,166	10,499,560
法人税、住民税及び事業税							70,000		70,000		70,000
当期一般正味財産増減額	-17,392,174	-25,739,888	-16,922,499	-1,605,077	53,611,539	-8,048,099	287,737	-380,244	-92,507	18,570,166	10,429,560

注1 従来形式の収支予算書で表示されている各委員会費支出、学術集会費支出は、事業の目的別に区分をし、各費用科目に予算を計上している。

注2 従来形式の収支予算書の事業費、管理費は科目ごとに一定の配賦割合（面積割合や従事割合など）に基づき、本収支予算書の事業費、管理費に配賦されている。

注3 従来形式の収支予算書に表示されている「退職給付支出」は本予算書には算入しない。

注4 従来形式の収支予算書に表示されていない「減価償却費」、「退職給付費用（要積立額）」を本予算書に計上している。

第 3 号議案

第 39 回日本看護科学学会学術集会会長の承認について

- ・ 第 39 回（平成 31 年度）日本看護科学学会学術集会会長 候補者

石垣 和子（石川県立看護大学）